



お手玉は脳の活性化に効果

おてたま

OTEDAMA CLUB IN JAPAN

NO.

35

2016年12月



シンポジウムのフィナーレ：祭典



競技大会個人戦・小学生の部：祭典

「全国お手玉遊びの祭典」を開催 北海道から沖縄県までの27支部から参加 新居浜 平成28年10月1日(土)~2日(日)



新しいお手玉遊びの交流(左)・オープニングの和太鼓演奏(中)・上妻悦子様寄贈の日本人形「藤娘」(右)：祭典

「全国お手玉遊びの祭典」の感想文とお礼の言葉が届く

● 尼崎支部 尼崎のお手玉の会
子どもにも高齢者にも愛される「忍たま音頭」

● 福岡支部 福岡お手玉の会
「おてたま」で笑顔が集まるお父さん・お母さんも

● 京都支部 京村人お手玉フレンド
高齢者や子どもの笑顔そして自分の笑い顔を

● 尾道支部 尾道お手玉フレンド
お手玉遊び尾道大会で金次郎賞・三世代賞

● 新居浜支部
放課後児童クラブで985人に「お手玉教室」

● 和歌山支部 和歌山のお手玉の会
「みんなでお手玉をして楽しかった」に支えられ

被災地熊本市へ「支援のお手玉」6千個
各支部や会員から心を込めて届ける

奈良のNPO法人が益城でお手玉と童謡を
● 群馬支部 伊勢崎お手玉の会
幼稚園に出かけお手玉積みなどを楽しむ

新しい支部紹介
「おた文化の森お手玉の会」(東京都)
「いずみっ子お手玉の会」(愛媛県)

日本のお手玉の会 役員の変動

「全国からの問い合わせが殺到」
「お手玉の里」新居浜市で平成28年10月1日・2日

「全国お手玉遊びの祭典」を開催
「こころと心を結ぶ新しいお手玉の世界」

「お手玉がテレビ・新聞で話題に」

「全国お手玉遊びの祭典」を開催

「こころと心を結ぶ新しいお手玉の世界」

「お手玉の里」新居浜市で平成28年10月1日・2日

北海道から沖縄県までの
27支部など2千人が参加

「全国お手玉遊びの祭典」が、「こころと心を結ぶ新しいお手玉の世界」をスローガンに、全国お手玉遊びの祭典実行委員会と新居浜市教育委員会の主催、日本のお手玉の会の共催で、平成28年10月1日(土)、2日(日)の両日、新居浜市のあかがねミュージアムで開催されました。

この祭典は、昨年7月、「お手玉の里」新居浜市に落成した総合文化施設・あかがねミュージアムの落成を記念して行われました。

祭典には、日本のお手玉の会の北海道から沖縄県まで、1都1道2府16県の27支部から150人と、地元からの参加者を含めて、2日間で延べ2,000人が参加しました。

第1日目は、和太鼓演奏で威勢よく幕を開け、開会式では、石川勝行新居浜市長の「歓迎のことば」、中村時広愛媛県知事からの「祝辞」(代読)がありました。

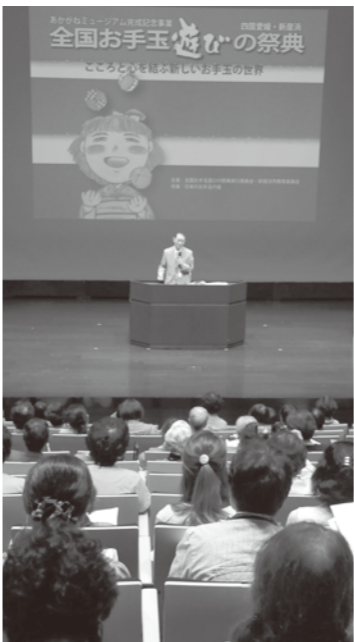
また、開会式で、あかがねミュージア

ムの落成に当たり、人形「藤娘」を寄贈された人形作家の上妻悦子様(東京在住)に、石川市長から感謝状が贈られました。

中原和彦博士の講演会や シンポジウムなど多彩に

開会式につづき、ヘルスアクトクリニックくまもと院長の中原和彦医学博士(日本のお手玉の会顧問)の講演『お手玉は子どもの脳を救う』があり、250人が参加しました。

中原博士は、お手玉でうつ病を治す心療内科医で、お手玉が持つチカラを、壇上でお手玉を実演しながら、ユーモアを交えながら、話されま



中原和彦博士の講演

また、熊本支部のみなさんが、壇上で効果的なお手玉の実演をしたり、ヨーヨーお手玉ダンスが演じられたり、興味深い講演を演出されました。つづいて、同じ会場で「子どもから高齢者までのお手玉」をテーマに、シンポジウムが行われました。

パネリストに、中原博士、日本のお手玉の会の宮中雲子会長、中島るり子(長崎)、森勝代(和歌山)、原妙子(福岡)、鈴木幸子(八王子)の各支部の会長が登場し、コーディネーター

は、鹿児島大学名誉教授の山本清洋教育博士(日本のお手玉の会副会長)が務めました。

パネリストは、自己紹介を兼ねて、お手玉遊びに取り組んだきっかけと、お手玉の魅力を語りました。また、子どもから高齢者までを対象とした、具体的な活動を紹介しました。

最後に、山本コーディネーターの音頭で、パネリストが立ち

高校生と各支部から 『お手玉の魅力』の活動報告

祭典の第2日目は、「お手玉の魅力」活動発表が行われました。日本のお手玉の会の長崎、東京、和歌山、八王子、熊本の各支部と、新居浜市地域包括支援センター、新居浜商業高等学校、新居浜西高等学校などが発表しました。

それぞれ、趣向を凝らした活動や、東北支援の報告、お手玉体操の紹介などが発表されました。

注目を集めたのは高校生による「被災地・浪江町とのお手玉交流」。「創作したお手玉体操で施設を訪問」の発表でした。発表の手法にも工夫があり、参加者は、「お手玉への思いと取り組みが、刺激になりました」と話していました。



高校生も加わっての活動発表

東北と熊本の支援にお礼も

活動発表の後、福島県から参加の齋藤朋子さんが、「東北大震災の際には、会員のみなさんからのお手玉支援や、お手玉慰問に駆けつけていただき、感謝しています」とお礼が述べられました。

また、鹿児島支部の山本清洋会長からは、「熊本地震へのお手玉支援のお願いに、各支部から6千個のお手玉



全員が立ち上がって踊り歌う交流会

競技大会の個人戦は 小学生と一般とも熱戦を展開

午後には、競技大会の個人戦があり、一般の部と小学生の部を合わせ、延べ250人が参加しました。

参加者は、7種目で技を競いましたが、なかなか勝負がつかなくて、頭にお手玉を乗せるなどして、熱戦が展開されました。

とくに、小学生の技術の進歩は著しく、会場からたくさん拍手が送られていました。

個人戦の入賞者は次のとおり。

【一般の部】(両手4個ゆり)優勝…豊田聖(観音寺市)、準優勝…廣木陸也(今治市)、3位…小林八千代(西予市)(両手3個ゆり)優勝…福永行洋



新しいお手玉遊びの体験交流

上がり、観客席と一緒になって、楽しいお手玉遊びを披露し、会場には笑顔があふれ、温かい雰囲気包まれました。

落語にパフォーマンスに 会場が総立ちになり交流

夜は、会場を市内の結婚式場に移して、交流会が行われました。石川新居浜市長をはじめ150人が参加しました。

交流会は、アマチュア落語家・芸乃鶴飼さんの「お手玉落語」で、大いに笑って幕が開きました。

参加者は、食事をしながら、近況や活動状況を話し合いました。また、各支部からはお手玉を使ったパフォーマンスが、次々に飛び出し、参加者全員が立ち上がって、会場全体が一つになつて歌い、踊る、楽しい交流会となりました。



活動を通じての体験を話し合うシンポ

終日にぎわった 『新しいお手玉遊びの体験交流』

また、2日間をとおして、屋内ステージでは、「新しいお手玉遊びの体験交流」が行われました。日本のお手玉の会の新居浜高専奇術部支部が担当し、自分たちの妙技も披露しながら、全国から参加した各支部のお手玉遊びの紹介をして、あかがねミュージアムを訪れた見学者や市民を巻き込んで、楽しい交流を演出しました。

日本のお手玉の会の京都、長崎、熊本、福岡の支部のみなさんと、新居浜市民とが一緒になって、温かい雰囲気でお手玉遊びをしました。参加した市民は、「全国のお手玉ファンと交流ができて楽しかった」と、笑顔で話していました。

お手玉がテレビ・新聞で話題に

全国からの問い合わせが殺到

朝日新聞「Reライフ」で「お手玉の活動」紹介

「朝日新聞」は、平成28年3月28日付「Reライフ」ページで、「童心に戻り心も弾む」のタイトルで、日本のお手玉の会の活動を中心に、「お手玉の



効用』を取りあげました。(写真)

最初に、日本のお手玉の会の宮中雲子会長が、お手玉は「いつでもどこでも誰とでも」気軽に遊べる楽しさが魅力と前置きして、次のように話しています。

お手玉の技量認定、進歩へのチャレンジの楽しさがあり、言葉、国境、年齢、人種を超越するコミュニケーションメディアになる素晴らしい遊びです。次に、遊び方の図解、「病院での活用」「脳への効果」「作る楽しみ」など、3か所の訪問記事が紹介されています。

看護師の水野晴子さん(日本のお手玉の会会員)が、入院中の精神病患者や認知症のお年寄りに、お手玉遊びをすすめたことで、笑顔が戻り、食欲が増したことを伝えています。

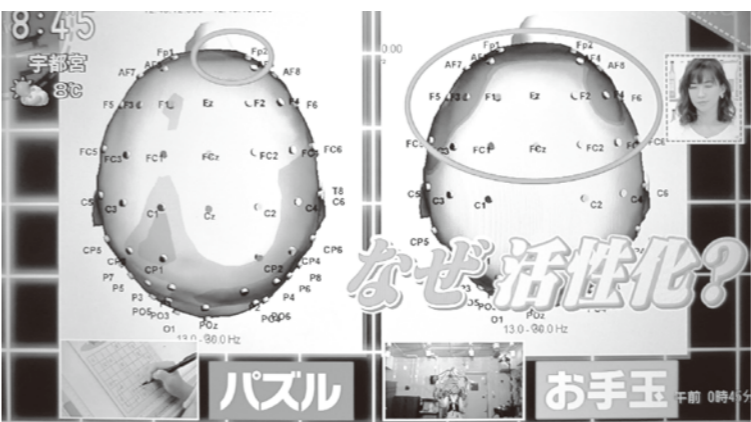
日本大学の森昭雄教授(脳神経科学・日本のお手玉の会顧問)は、「お手玉は前頭前野を活性化させる。2個のお手玉の色を変えたり、時計回しや得意なら反対回しにもチャレンジするなどによる、脳への効果を知って、もっと多くの人にやってもらいたい」といっています。

東京お手玉の会の飯田喜久子さんは、「脳への効果を知って、多くの人

が、家の布きれでお手玉づくりを試して欲しい」と呼びかけています。この記事を読んだ方から本部に、「近くの支部を教えてください」「どんな遊び方があるの?」など、200件を超える電話での問い合わせがありました。

NHK『あさいち』の『すこ技Q』で「お手玉」

NHKテレビの人気番組「あさいち」の平成28年1月19日(火)の放送では、「スゴ技Q!」「小豆にもっと光を!特集」で、「すこいぞ!お手玉」が放送されました。



左はパズルを解いているとき、右が2個のお手玉をゆっているときの前頭前野

「昔はお手玉に小豆を入れたものです。そのお手玉に、嘘のようなほんとうの話として、お手玉の効用が科学的な実験で証明されています」と前置きで始まりました。

まず、日本大学で脳を研究している森昭雄教授(日本のお手玉の会顧問)が登場し、「お手玉で遊ぶことで、集中力アップや認知症の予防ができる」との話がありました。

その理由は、「脳を活性化させるため」と説明され、お手玉をゆった時の「シャリシャリという音」(聴覚)、「やわらかい手触り」(触覚)、「瞬間的な判断」が、脳の大切な部分のひとつ「前頭前野」を刺激するからだ、と解説していました。

森教授の研究室で、実際に脳波を測定してみると、確かに前頭前野が活性化していました。また、むずかしいパズルを解いているときよりも、2個のお手玉をゆっている時の方が脳は活性化していました。

しかも、2個のお手玉を利き手から上げるときより、利き手でない方の手から上げる反対回しの方が、より効果的だということも証明されました。

番組では、「学校の休み時間や家事の合間にお手玉で遊ぶと、集中力が高まり、学力アップや効率につながるそうです」と、お手玉遊びをすすめていました。

(この記事は、NHKのホームページの記事も参考にしました。写真はNHKのテレビ画面から)

NHK朝ドラ『へっぴんさん』に「お手玉」が神戸支部の2人が指導を担当

NHK連続テレビ小説「へっぴんさん」に、お手玉が登場しました。

第6週「笑顔をもう一度」の6日目(11月12日)でした。すみれは、小豆入りのお手玉を作ります。すると、訪ねてきていた、すみれの姉婿の友人・栄輔が、そのお手玉で「一番初めは「宮…」と歌いながら、片手2個ゆり、両手3個ゆりをやって見せます。

それを、見つめる、さくら、すみれと姉、女中頭が、笑顔で拍手を送ります。後日、すみれの夫・紀夫も両手3個ゆりを披露しました。

このお手玉を指導したのは、日本のお手玉の会神戸支部の山田カヲルさんと、宮崎広子さんです。

7月のある日、NHK大阪放送局から日本のお手玉の会本部に、「朝ドラに、お手玉をする場面があるので、



片手2個ゆりをやってみせる栄輔と見守る家族

出演者にお手玉を指導してほしい」との連絡が入りました。そこで、神戸お手玉の会の北村義雄会長(日本のお手玉の会副会長)に連絡をして、山田さんと、宮崎さんを紹介していただきました。



自分でお手玉を縫ってゆってみるすみれ

お二人は、お手玉ができなかった栄輔役の松下優也さんや、すみれの夫・紀夫役の永山絢斗さんに、手ほどきをしました。その山田さんと宮崎さんの感想を紹介します。

『へっぴんさん』の撮影に参加して神戸お手玉の会 山田カヲル 宮崎 広子

7月のある日、監督さんから、「指導をする俳優は、お手玉の経験がないので、歌を歌いながら3個ゆりができるようにしてほしい」との連絡がありました。二人で大阪放送局に出かけました。

監督やスタッフと打ち合わせて、お手玉の技を披露し、歌はドラマの時代に合わせて「一番初めは…」に決まりました。松下さんに会い、練習を始めた。両手2個ゆりはすぐできましたが、片手2個ゆりは、汗だくになつて練習をつづけるうちに、さすが俳優さん。のみ込みが早く、できるようになりました。

両手3個ゆりの練習は、時間切れになり、私たちの技を動画に撮り、それを見ながら家で練習することになりました。次に会ったときには、高さや手の位置、力の入れ方などを説明して、立派にできるようになりました。

7月の終わりに、もう一人お願いしたいと、永山さんを紹介されました。永山さんは、子どものころボールで2個ゆりをして遊んだ経験があり、3



NHK大阪放送局前でお手玉をゆる山田さん(右)と宮崎さん(左)

個ゆりも早くできました。

8月2日は、本番前の栄輔さんの練習を見ました。歌いながら3個ゆりができていました。10日余りで完璧にできるのは驚きました。

スタジオの休憩中に、監督さんからセットを見学するようにいわれ、たくさんの家、街角、部屋などのセットを見せてもらいました。

また、このドラマは、週ごとに5人の監督さんが交代で担当することも知りませんでした。

本番も含め大阪放送局に8回通いました。苦勞もありましたが、一生体験できないことができて、今は感謝しています。

(上の3枚の写真は、いずれも、NHKのテレビ画面を撮影したものです。)

福岡支部 福岡お手玉の会

お手玉で笑顔が集まる お父さん・お母さんも

福岡お手玉の会(原妙子会長)は、平成28年1月の第14回新春お手玉初め大会で幕を開けました。今回は、東区JR福工大駅のコミセン和臼で行い、130人が参加。そのうち幼児は50人も集いました。

私立雙葉小学校のお手玉授業は、1年生3クラスが対象で、今年が10回目です。90分で両手2個ゆり、お手玉ゲーム、お手玉ダンスを行い、最後に両手2個ゆりの初段に挑戦しました。

後日、生徒全員の「お便り集」が届きました。そこには、お手玉と出会った喜びとお礼、そして「名人みたいになりたくて、毎日練習しています」と書かれていました。

夏休みには、3校の1年から6年ま



新居浜支部

32の放課後児童クラブで 985人に「お手玉教室」



新居浜支部(伊藤雅治会長)は、平成28年の夏休みを利用して、市内の小学校19校の23の放課後児童クラブを対象に、「お手玉教室」を、新居浜高専奇術部支部の協力をいただいで実施しました。

これは、新居浜市の「お手玉の文化の薫るまちづくり事業」の一環として行いました。

新居浜市が「お手玉の里」と呼ばれる理由をはじめ、新居浜市で最初に全国お手玉遊び大会を開催し、新居浜市に日本のお手玉の会の本部があることも、話しました。

また、日本のお手玉の会が発行した写真絵本「お手玉」が、全国に広がり、小学校の教科書でも紹介されていること、その英語版も発行されている

での留守家庭子ども会の100余名と、体育館でお手玉遊びをしました。汗びっしょりになりながら、両手2個ゆりに挑戦する姿に、心を打たれました。(写真)

月に1回第4土曜日は、中央児童会館に出かけ、幼児親子、小中高生など幅広い層と一緒に、お手玉遊びをしています。

お父さん、お母さんも、お手玉ゆりに夢中になります。

私たちの使命は、素晴らしいお手玉文化を伝承することだと思っています。

京都支部

京・村人お手玉フレンド

高齢者や子どもの笑顔 そして自分の笑い顔を

京・村人お手玉フレンド(田村節子会長)は、平成24年に会員14名で発足しました。

村のデイサービス、保育園、認知症対応型カフェ、イベントなどで、お手玉遊びを繰り広げています。(写真) デイサービスでは、真っ赤なたまちゃんTシャツ姿の私たちを、大きな拍手で迎えていただき、遊びがスタートします。

お手玉を仲立ちにみんなが知っている歌を大声で歌い、お手玉を操るうちに、いつの間にか笑顔の花が咲きます。

両手でお手玉を握り、隣の人に渡

ることも紹介しました。

NHKテレビの番組や脳科学者が「2個のお手玉を使うことで、脳が活性化し、物忘れがなくなり、勉強の効果も高まることを証明している」となども話しました。

その後の実技体験では、2個のお手玉を使って『うさぎとかめ』の『お手玉体操』を体験してもらいました。

参加した小学生は、元気よく『うさぎとかめ』を歌いながら、お手玉をつかんだり、つまんで送ったり、2個ゆりを利き手からと、逆の手からを交互に行う体操に、笑顔でチャレンジしました。(写真)

そして、「この『お手玉体操』をして、算数の点数をよくしたい」とか、「忘れ物をしないようにしたい」などと、感想を話してくれました。



し、歌い踊り、汗がにじむほどの活動です。

そんな中で、ヨーヨーお手玉は、「落ちないお手玉」として重宝しています。

「子どもから高齢者まで楽しく」をモットーに、月2回の練習で技術の向上に努めるとともに、「自分の笑い顔」を楽しみに集まっています。

尾道支部

尾道お手玉フレンド

お手玉遊び尾道大会で 金次郎賞や三世代賞が

尾道お手玉フレンド(横信子会長)では、平成28年1月23日(土)に、第12回お手玉遊び尾道大会を、尾道市総合福祉センターで行いました。

大会のテーマは、「お手玉ではじめる健康への道」お手玉に夢と希望をのせて〜でした。

和歌山支部

和歌山のお手玉の会

「みんなでお手玉をして 楽しかった」に支えられ



和歌山のお手玉の会(森勝代会長)では、平成28年7月30日(土)、地域の方々の協力と、近畿支部のみなさん



競技は、小学生の部と一般の部に分かれて行う個人戦と団体戦です。

個人戦の小学生の部は、低学年の部(両手2個ゆり)と、高学年の部(ジャグリング、片手2個ゆり、両手2個ゆり)に分けて行い、一般の部は、両手3個ゆり、片手2個ゆり、ジャグリングとしました。

団体戦は、小学生の部、一般の部とも、1チーム3人編成で行いました。

個人戦、団体戦とも上位者を表彰しました。また、特別賞として、小学生の部に「IMD(いまだき)二宮金次郎賞」が、一般の部に「みならいたい仲良し家族三世代」が贈られました。

お手玉の効用に元気を得て

一時は30名を超える会員でしたが、会員は減る一方で、「もう年だし、大会は無理よね」という声がありました。

しかし、最近のテレビなどで、お手玉が脳を活性化し、認知症の予防になるとの効用がいわれています。

おかげで、次世代にお手玉の楽しさを伝え、自分自身の健康寿命を延ばし、家族のため、日本のためになると確信し、大会の開催を決定しました。

多くのボランティアの協力も得て、小学生も元気に参加し、一般の部も年を感じさせない笑顔に包まれました。「ぜひ来年も開催を!」「リベンジしたい」などのアンケートに意を強くしています。(山根三重副会長)



の支えで、今年も「お手玉遊び交流会」を開催しました。

今回は、京・村人お手玉フレンドのみなさんが、「南山城村の四季」の演舞など、たくさんさんの演舞を披露していただき、参考になりました。

保育所の園児や、小学生もたくさん参加して、地域の方々と一緒に、お手玉ゲームなどを楽しみました。

子どもたちは、「みんなでお手玉ができて面白かった」「いろんな遊びやゲームができて楽しかった」とか、大人は、「孫たちと参加しましたが、頭の体操としても、健康にもいい、家でも歌いながらやりたいです」などと感想を話してくれました。(写真…左上、右下)

また、今年の交流会では、男性会員が工夫した「けん玉お手玉」と、その奥様が創作した花や動物のお手玉が好評でした。(写真…右上)

そのほか、和歌山県立図書館や保育所でのお手玉教室、和歌山大学で保育を学ぶ学生さんの授業など、お手玉の効能を理解していただき、多くの活動に努力しました。

被災地熊本市へ『支援のお手玉』6千個

各支部や会員から心を込めて届ける

平成28年4月14日に発生した熊本地震は、広い範囲に大きな被害をもたらし、多くの方が被災しました。日本のお手玉の会の各支部や多くの会員から、本部に「何か支援をしたい」との意見が、たくさん届きました。

そこで、日本のお手玉の会副会長で鹿児島お手玉の会の山本清洋会長（熊本県出身）に、現地の状況や、日本のお手玉の会としてできる支援について、調査をお願いしました。山本副会長から、熊本市の教育委



写真上：熊本県上益城郡益城町の家屋崩壊現場（「カルチュラル・ニュース」編集長 東繁春氏（ロサンゼルス・日本のお手玉の会新居浜支部顧問）が撮影）

員会が、市内の小学校に希望を尋ねたところ、95の小学校のうち40校から「支援のお手玉」、14校から「支援のお手玉教室」の要請があった、との知らせがありました。

そこで、「支援のお手玉」を40校に各200個ずつ贈る目標を立て、全国の支部に、「無理のない範囲で、200個を目標に、お手玉の支援」をお願いしました。

その結果、各支部から熊本市教育委員会にお送りいただいたお手玉は、6千個になりました。この支援に、熊本市教育委員会から、「たいへんお世話様になりました。生徒たちも喜んで、お手玉遊びをしています」との



群馬支部 伊勢崎お手玉の会

幼稚園に出かけお手玉 積み遊びなどを楽しむ



伊勢崎お手玉の会（飯塚千砂会長）では、月1回の練習日に、会員相互の技術向上に努めるとともに、施設や幼稚園などを訪問しています。このほど、会員4名で、幼稚園に出かけました。幼稚園では、4つのグループに分かれて、会員が一人ずつ入って、お手玉積みや、丸く輪になっ

て、お手玉遊びをしたりしました。

お手玉を、好きなように並べる遊びでは、果物や動物、お花、人形など、いろいろな形ができました。

思い思いに無心になって並べ、完成すると、それぞれに「できたー」と、笑顔で歓声を上げていました。年長さんの中には、2個ゆりができる子もいて、うれしそうにゆって見せてくれました。



年長さんには2個ゆりができる子も

北川貞子理事が退任 森下恵子理事が就任

日本のお手玉の会 役員の変動

日本のお手玉の会の役員に異動があり、平成28年8月12日付で、次のとおり、理事が交代しまし

たので、お知らせします。

退任：理事…北川貞子（中国プロック代表理事・J A岡山お手玉の会会長）

新任：理事…森下恵子（中国プロック代表理事・ひろしまお手玉の会会長）

北川様、お世話様になりました。森下様、よろしくお願ひします。

連絡がありました。

みなさんの心のこもった、温かいご協力に、お礼を申し上げます。

また、「支援のお手玉教室」は、鹿児島お手玉の会と、熊本おじゃめの会（荒木千鶴子会長）、大牟田お手玉の会（杉村美智子会長）を中心に、対応していただきました。感謝していま



全国から届いたお手玉（毎日新聞から）

奈良のNPO法人が益城で お手玉と童謡のプレゼント

熊本おじゃめの会も協力して

熊本地震の被災者をお手玉と童謡で支援しようと、奈良市のNPO法人「音楽の森」荒井敦子理事長・日本のお手玉の会新居浜支部顧問が、荒井理事長が主宰するコーラスグループ、奈良お手玉の会「たまゆら」の会員などと協力して、平成28年5

月、お手玉づくりに取り組みました。一方、テレビや新聞などで、お手玉の提供を呼び掛けたところ、全国から5,300個のお手玉が届きました。それらのお手玉を持って、平成28年8月18日、19日の両日、熊本に出かけました。

熊本では、ヘルスアートクリニックまもと院長の中原和彦医学博士（日本のお手玉の会顧問）と、熊本おじゃめの会（荒木千鶴子会長）などの協力も得て、被災地の益城町などを慰問しました。益城町は、第11回全国お手玉遊び大会の開催地でもあり、避難所となっている総合体育館は、全国大会の会場でもありました。

こんなに笑い大きな声を出したのは震災後初めて

まず、お見舞いと激励のメッセージを添えたお手玉を配り、被災地の方々と一緒に、音楽家で音楽療法士でもある荒井理事長のリードで、童謡を歌いながらお手玉をしました。

参加した避難所の人たちは、子どもさんも、高齢者のみなさんも、全員が大きな声で童謡を歌いながら、笑顔でお手玉遊びを楽しみました。

参加したみなさんは、「こんなに大きな声で歌ったり、笑ったりしたのは、震災にあつてから初めてのことで。ほんとうにありがとうございます」と、涙を流しながら、訪問したメンバーと、硬い握手を交わし、喜びを語ってくれました。

新しい支部紹介

平成28年8月12日、2つの支部が誕生しましたのでご紹介いたします。

『おおた文化の森お手玉の会』 ～東京都大田区～



地域のボランティア講座を4回受講し、お手玉の作り方、遊び方を学び、興味を持ちました。

そこで、東京お手玉の会（世田谷区）のメンバーに加えていただき、ご指導をいただいています。

このたび、周りのみなさんのお勧めもあり、20人の会員で、太田支部「おおた文化の森お手玉の会」（小川かよ子会長）をつくりました。これからは、「できるときに、できることを」の理念で、高齢者のグループや、幼稚園、小学校に出かけ、より多くの人に、お手玉遊びの素晴らしさを伝えていきたいと考えています。

東京お手玉の会の妹分として、よろしくお願ひします。

『いずみっ子お手玉の会』 ～愛媛県新居浜市～



第4回全国お手玉遊び大会に参加して以来、日本のお手玉の会の会員として、また、新居浜支部の一員として活動してきました。

これからは、より身近なところで、お手玉遊びを広げたいと考えて、泉川支部「いずみっ子お手玉の会」（今村シメ子会長）を立ち上げました。

これからは、高齢者の健康を応援し、ふるさとの児童のために、また、自分たちの健康のために、身近な地域での活動を活発にすすめていきます。

いま、地域の方々に愛され、毎年、公民館まつりなどに、会員15〜20人が参加し、たくさんの方のみなさんに、にぎやかに楽しんでいただいています。

これからも、大いに努力してまいります。よろしくお願ひします。

尼崎支部

尼崎のお手玉の会

子どもにも高齢者にも愛される「忍たま音頭」



お手玉遊びが終わると「楽しかった！ありがとう！またきてね〜」の子どもたちの笑顔に、感動とパワーをもらって、活動は13年目を迎えました。

初めてお手玉を体験する子どもたちは、第一步を踏み出すことができると、笑顔になります。そこで「おめでと〜う！」といってハイタッチをすると、次の技にチャレンジしてくれます。

私たちの目玉は「忍たま音頭」で、どこでも、子どもたちからリクエストされます。

「忍たま乱太郎」の発祥の地なので、盆踊りにお手玉を振りつけたのがきっかけで、年齢を問わず親しまれてきました。

今年、尼崎市制100周年で、10月の市民祭りでは、地域のみなさんの要請で「忍たま音頭」を、舞台上で披

露しました。(写真・上)

舞台上に入りきれなくて、舞台下の広場と両方で、「忍たま音頭」に取り組みました。

参加したみなさんは、いずれもハイテンションで、お手玉愛好者になってもらえました。

また、市内の小学3年生140人と保護者100人を対象とした、お手玉遊び交流会も、4年目を迎えて、年々、保護者の参加が増えています。

その結果、親子、育友会、学校との交流がよくなった、という評価もいただいています。(写真・左)

子どもたちは、毎回、感想文を送ってくれていますが、今年は、感想文の代わりに、熊本のみなさんへの「励ましメッセージ」を書いてくれました。

(尼崎のお手玉の会会長・池邊美保子)



「全国お手玉遊びの祭典」の感想文とお礼の言葉が届く

「全国お手玉遊びの祭典」に参加した多くの方々や、京・村人お手玉フレンド、和歌山のお手玉の会、むかしなつかしお手玉会、山口などから、たくさん感想やお礼の言葉をいただきました。その一部をご紹介します。

S S S

*若い世代の活動に将来性

今回の祭典では、学生さんなど若い世代の活動に、「将来性のある遊び」を感じました。

ヨーヨーお手玉、お手玉紙芝居や落語など、新しい側面を楽しむことができ、大きな収穫を得ることができました。(京・村人)

*新居浜のみなさんに感謝

「お手玉のふる里」を訪ねたことで、心が沸いています。新居浜のまちのみなさんに、感謝の気持ちでいっぱいです。(京・村人)

*お手玉は「いま」を取り戻す

中原和彦博士のご講演での、「お手玉は、いまを取り戻す」「子どもの脳を救う」とのお話は、私たちの方向性に、確信を深めることができました。(京・村人)

*お手玉のご縁でつながり

お手玉大好きな人が、こんなにたくさんいて、熱い心で活動される

ているなんて「さすがお手玉」。お手玉のご縁で、たくさんの方々につながりができたことに感謝です。(山口)

*高校生の活動にブラボー

たかがお手玉！されどお手玉！さすがお手玉！に、大盛り上がり。各支部のパフォーマンスは、参考になることがたくさんありました。高校生の取り組みにもブラボー！大興奮状態になりました。(山口)

*時代にあつた遊びに感動

お手玉が、ただの遊びではなく、今の時代に合った遊びになっているのを見て、感動しました。また、お手玉を通じて福島の高校生と交流されたり、熊本にもたくさんのお手玉を送られていることを知り、「さすがお手玉」と改めて思いました。(山口)

*お手玉大好きな人たちに

全国のお手玉大好きな人達に出会うことができ、感動です。お手玉のいろいろな技、活動の様子もいろいろあることを知りました。自分も精進しよう、と思いました。(山口)

*素晴らしい「お手玉人生」

素晴らしい「お手玉人生」を歩んでおられる方々と交流ができました。これからも、全国のみなさんに学んで、手をつないで行けることを、望んでいます。(和歌山)



【発行・編集】

日本のお手玉の会

〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町10番1号 銅夢いはいま内

TEL : 0897-32-0302 FAX : 0897-32-0311
URL: <http://www.otedama.jp>
E-mail: honbu@otedama.jp